

社会とのかかわり



地域社会とともに

JR東日本では「ステーションルネッサンス」として、地域の顔である駅に賑わいを創出し、地元への集客効果を高めるなど、地域社会への貢献に取り組んでいます。例えば、立川駅においてはバリアフリー設備の拡充などを行い、よりご利用いただきやすい駅にするとともに、新たな商業スペース「ecute立川」「ホテルメッツ立川」をつくりました。

また、東京駅では、八重洲側において「グラントウキョウノースタワー/サウスタワー」「グランルーフ」を展開しており（「グラントウキョウノースタワーⅡ期は2012年、「グランルーフ」は2013年完成予定）、丸の内側において駅舎の保存・復原を進めています。駅構内には商業ゾーン「グランスタ」を展開しており、これらを合わせて「東京駅が、街になる」をコンセプトに「東京ステーションシティ」と名づけ、首都東京の玄関口にふさわしい、新しい文化の発信地としてのまちづくりをめざしています。

さらに、地方自治体などからの要請に基づき、まちづくりにあわせた新駅設置、自由通路設置に伴う駅舎整備を自治体と協力して進めています。2009年度には周辺の再開発事業にあわせ、横須賀線武蔵小杉駅が新たに開業し、1987年の会社発足より自治体からの要請に基づき設置した駅は40駅になりました。また、山手線大塚駅、高崎線上尾駅などでは自由通路設置に伴う駅舎整備を行いました。



武蔵小杉駅



大塚駅

子育て支援施設 ～“子育てをしながら働く”を応援～

駅から概ね5分のアクセスの良い立地を中心に「駅型保育園」などの子育て支援施設の開設を進め「仕事」と「子育て」の両立を応援しています。1996年から開設した子育て支援施設は累計で34ヵ所（2010年4月現在）に達しており、今後もさらなる拡大をめざしています。「駅型保育園」では通勤途中に送迎ができるメリットに加え、父親と登園する子どもも多く見られ、当社の取り組みは男性の育児参加の支援にもつながっています。今後も子育てにまつわるさまざまなニーズに対応した保育サービスを展開し、地域社会への貢献・沿線価値の向上に積極的に取り組んでいきます。



新幹線と駅型保育園



駅ビルの屋上庭園で遊ぶ園児たち

外出支援応援「リフレスタ」

横浜駅改札内にある「リフレスタ」は、「ベビー休憩室」「メイクアップラウンジ」「カフェ」が一体となった施設です。ベビー休憩室では、おむつ交換台や授乳室のほか、子どもトイレも用意して、小さなお子さまをお連れのお客さまなどの外出をサポートしています。



鉄道文化財団

JR東日本の経営資源を継続的に社会貢献活動に役立てるため、(財)東日本鉄道文化財団を1992年に設立し、鉄道を通じた地域文化の振興、鉄道に関する調査・研究の促進、鉄道にかかわる国際文化交流の推進などに取り組んでいます。主な活動内容は、鉄道博物館や旧新橋停車場の運営、地方文化事業支援、アジア各国の鉄道事業者の研修受入れなどであり、ホームページ(<http://www.ejrcf.or.jp/>)等で情報発信を行っています。なお2010年4月より公益財団法人となりました。

鉄道博物館

①鉄道に関わる遺産・資料の調査研究を体系的に行う「鉄道博物館」、②実物を中心とした展示により鉄道の歴史を語る「歴史博物館」、③鉄道の原理・仕組みや技術について体験的に学習できる「教育博物館」、の3点をコンセプトに2007年に埼玉県さいたま市にオープン。以来、多くのお客さま(2009年度は約95万人)にご来館いただいています。2009年10月より、0系新幹線の公開を開始しました。



2007年10月14日(鉄道の日)にオープンした「鉄道博物館」(さいたま市大宮区)

次代の担い手とともに—鉄道少年団

(財)交通道德協会が運営する「鉄道少年団」は、青少年へ向けた交通道德の高揚を目的に、管内12支部約500名の団員が多彩な活動を行っています。これをサポートするJR東日本では、各支社に事務局を設置し、駅の清掃活動や各種鉄道施設の見学といった活動の場を提供し、次世代の交通道德の向上に資するよう、積極的な支援を続けていきます。

技術・ノウハウの国際協力

海外の鉄道関係者へ向け、JR東日本が培ってきた技術やノウハウを紹介しています。2009年度は47ヵ国、478名の海外の視察・訪問を受け、国営鉄道の民営化手法と課題、新幹線やSuicaに代表される先端技術ノウハウ、さらには地球環境保護、生活サービス事業に関する多彩なセミナーや現場視察を実施、情報提供を行いました。さらに国土交通省などの要請に基づき、アジアなど近隣諸国への鉄道専門家の派遣を行い、現地での指導などを通じて、国際協力を進めています。



“East i” (新幹線電気・軌道総合検測車)の視察



仙石線ATACSの視察

国際機関を通じた世界への貢献

JR東日本は、UIC(国際鉄道連合)やUITP(国際公共交通連合)、AAR(米国鉄道協会)などの鉄道国際機関に加盟し、世界各国の鉄道事業者などと交流しています。近年は、これらの国際機関の会議を主催したり、日本の鉄道技術を紹介すべくスタディーツアーを催行するなど、鉄道事業のグローバルな振興・発展に寄与すべく努めています。

2009年4月には石田副会長がUIC会長に就任しました。これにより、JR東日本が世界の鉄道の発展に貢献する場がこれまで以上に広がるとともに、世界における日本の鉄道の存在感を高める機会を与えられたと言えます。



UIC総会でスピーチをする
石田副会長 (2010年東京)



UITP地域郊外鉄道委員会 (2010年東京)